

第390回三木市議会定例会 市長 開会あいさつ

令和7年11月25日

議会の開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

10月から11月にかけて、三木市が誇る地域資源を見ますと、ゴルフでは日本女子オープン、マスターズGCレディース、ACNチャンピオンシップゴルフトーナメントが市内で開催され、トップ選手たちの熱いプレーが繰り広げられました。金物では金物まつりを盛大に開催し、2日間で10万5千人の方が来場されました。酒米山田錦では夏の異常な高温があった中で無事に収穫が終わり、各地の酒蔵において新酒づくりが進んでいるところです。

そうした中、本日、第390回市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆さまにおかれましては、公私ご多用の中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、平素から市政の運営につきまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本年は降雨量が少なく、本市の水源の一つである吞吐

ダム及び大川瀬ダムの貯水量が低下し、20%の取水制限が行われておりましたが、ダムの貯水量が回復したことにより、先月31日に取水制限が解除されました。これに伴い、本市においては、渇水対策本部を解散するとともに、節水へのご協力のお願いも解除しました。市民の皆様におかれましては、長期にわたり、節水にご協力賜りありがとうございました。なお、今後少雨が続くなど渇水の恐れがある場合には、改めて節水へのご協力をお願いすることも考えられます。その際は、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、先月には「大阪・関西万博2025」が閉幕しました。4月13日から10月13日までの184日間で、2,557万人の方が万博会場に訪れました。三木市においては、7月に三木金物のシンボルである「金物鷺」を展示したほか、9イベントに23日間出展し、約16万人以上の方に来場いただきました。これらの取組により、国内だけでなく世界に向けて三木市の魅力を発信しました。万博を一過性のものとしてとらえるのではなく、万博をきっかけとし、さらなる三木市のPRにつなげてまいります。加えて、「ひょうごフィールドパビリオン」についても市内で10のプログラムの認定を受けており、引き続きインバ

ウンドをはじめ、国内外から人を呼び込み、まちの活性化につなげてまいります。

さらに、今月1日から21日まで、青山7丁目で進めている団地再生事業の核となる三木市多世代交流施設の名称を選定するため、「名称総選挙」を実施しました。名称及びロゴの案は、「H I T O T O K I M I K I (ひととき みき)」、「三つ葉ひろば」、「シーズの広場」、「L I N K M I K I (リンク三木)」の4つです。この施設は、「共におぎなう・つなぐ・はぐくむ」をテーマとしており、団地再生事業の拠点となるものです。「おぎなう」については子育て支援やコワーキングスペースなどの機能、「つなぐ」については行政や民間企業などが実施するサービスの紹介などの機能、「はぐくむ」についてはフリースペースや芝生広場におけるイベントや体験会の開催などの機能をそれぞれ表しています。現在、投票結果の集計中であり、市民の皆様に共感いただけるような名称が選定されるものと考えておりますので、ご期待ください。

今月30日には、東播磨道が全線開通し、国道175号とながります。これにより、交通の南北軸が強化され、三木市への

アクセスがさらに向上します。交通渋滞の緩和はもとより、地域間の連携が促進されるほか、人やモノの動きが活発化し、まちの活性化につながるものと期待しています。

最後になりましたが、このたびの市議会定例会は、条例関係5件、指定管理者の指定7件、補正予算関係4件、その他1件、合わせて17件の提案を予定いたしております。

また、後日、条例関係3件、補正予算関係7件の提案を予定しております。

議員の皆さまにおかれましては、どうか慎重なるご審議をいただき、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます、開会のあいさつといたします。